

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 26 年 10 月

がんセンター新潟病院 病理の紹介

副院長 本間慶一



こんにちは、病理診断科の本間慶一です。当院病理の紹介をさせていただきます。

当院病理のスタッフは、病理医 3 名(病理専門医+細胞診専門医 2)、技師 12 名(細胞検査士 11)、医療クラーク 1 名の 16 名です。2013 年の実績では組織診 11,235 件、細胞診 11,932 件、剖検 18 件でした。この中には

術中迅速組織診 584 件、迅速細胞診 908 件も含まれます。

また、臨床各科の学会発表のための病理画像撮影は日常的ですし、臨床研究のために多数例の病理標本を再鏡検しデータ取りすることもあります。病理医 3 名では過重な仕事量ですが、県内で最も充実している技師スタッフのサポートと、山形大前教授本山悌一先生、福島医大前教授鈴木利光先生、当院元副院長根本啓一先生、岩淵三哉教授をはじめとする新大病理の先生方からのご指導とご支援をいただきながら、なんとかやっています。

当院は他院に比べ腫瘍検体が多いですが、殊に乳腺、肺縦隔、泌尿器科、婦人科などの腫瘍は県内どの病院よりも多く扱っています。多数の検体に接していますので必然的にそれら臓器の病理診断に精通します。私は 10 年来日本病理学会の乳腺病理コンサルタントに名を連ねていますし、同僚病理専門医川崎隆先生は泌尿器科出身ということもあって泌尿器科病理のエキスパートです。もう一人の西田浩彰先生は、毎週の呼吸器術前術後検討会で病理の中心となっていますので、将来的には肺腫瘍病理のリーダーになってくれるだろうと期待しています。

術中迅速細胞診が多いのも当院の特徴で、消化管・肝胆膵・卵巣子宮腫瘍の腹腔洗浄細胞診、肺癌の胸腔洗浄細胞診や穿刺吸引細胞診など多くを迅速判定しています。胃癌の腹腔洗浄細胞診では、以前よりパパニコロウ染色に平行して免疫染色と CEA の mRNA を標的にした定性的 PCR を行って来ましたが、最近ではリアルタイム PCR による定量判定も始めました。また気管支や肺門・縦隔リンパ節、胆膵系腫瘍に対する超音波内視鏡併用の細胞診などオンサイトで迅速判定が必要な細胞診検査にも積極的に出向いています。

OSNA 法による乳癌のセンチネルリンパ節検索は当院が県内唯一で取り組んでいます。センチネルリンパ節は凍結組織診による術中報告が一般的ですが、術中で転移陰性と判定され、その後の永久組織診や免疫染色で初めて転移と判明する症例が何割かあります。組織検索ではリンパ節をせいぜい 2mm 間隔程度でしか切片化できませんので微小転移であればあるほど転移を見逃す可能性は大となります。まして凍結切片は永久組織切片より標本の質が劣りますので、術中迅速診断の精度はさらに低くならざるを得ません。これに対し OSNA 法は乳癌の 99%が持っているサイトケラチ

ン 19 の mRNA を標的にしてリンパ節すべてをリアルタイム PCR で検索しますので、ごく微量の転移であっても数値化された定量的な判定ができ、転移を見逃すことはまずありません。OSNA 法の所要時間は凍結組織診より 20 分ほど長くなりますが、手術時間内には終了します。OSNA 法により凍結組織診と比べ格段に高い精度での転移判定が可能となるのです。

乳癌では ER、PgR、HER2、Ki-67 の検索がルーチン化し、肺癌や大腸癌では ALK、EGFR といった治療法決定のための病理検索が増えています。最近では分子標的抗腫瘍薬剤の開発ラッシュですので、高価だが効果も期待される腫瘍治療薬の適用を決めるための病理検索によるコンパニオン診断の重要性は今後も増すものと思われます。病理と臨床の関係は更に密なものとなるはずで

以上、まだお話し足りないところもありますが、簡単に当院病理の現状を紹介しました。もし、病理診断に関することや病理組織標本についてのご意見・ご質問があるようでしたら、当方までご連絡下さい。大体のことなら対応できると思います。今後とも当院病理をご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

がん看護専門看護師の紹介

寄り添う看護を目指して

西6病棟 田中 直子



私は日々、がん患者さんやご家族の方の看護をしていく中で、自分のがん患者さんと正面から向き合い看護していないのではないかと、もっといい看護ができたのではないかと悩むようになっていた時に、当院のがん専門看護師に関わる機会があり知識の深さに感銘を受け、もっとがん患者さんの事を理解し良い看護がしたいとがん看護専門看護師を目指し、平成 25 年認定を受け今年度より専門看護師として活動を行っています。

専門看護師には 6 つの役割を果たす必要があります。卓越した看護を実践する（実践）、看護者を含むケア対象者に対するコンサルテーション（相談）、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーション（調整）、倫理的な問題や葛藤の解決を図る（倫理調整）、ケアの向上させるための教育的役割（教育）専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動（研究）になります。

現在私は、呼吸器内科、循環器病棟に勤務しています。特徴として多くの方が短期入院を繰り返し、社会生活を続けながら治療を行っています。私は、患者さんやご家族の方が希望する QOL（生活の質）を維持し治療が継続できるように、経済的な問題や家庭の悩み、治療に対する悩みなど広く視野をもって、患者さんの声を聞き支援できるよう根拠を用いたり、他職種との協力を得たりして実践しています。また、スタッフが困っていることがあるときは、一緒に考え悩みを抱えたままケアしなくていいように働きかけています。最近では、スタッフに講義を行い知識の共有や向上を目指して活動しています。まだまだ未熟で患者さんやスタッフに教えてもらうことが多い日々ですが、患者さんやスタッフに必要とされるがん看護専門看護師を目指して活動していきたいと思っています。





私は、2012 年にがん看護専門看護師に認定され、現在は小児科・血液内科病棟で勤務しています。がん看護専門看護師を目指した理由は、がん看護について専門的なことを体系的に学び、患者様におおげさではなく、ささやかなことでもアドバイスさせて頂きたいという思いからでした。治療は患者様にとって、生活の一部であり、今までの生活と変わらない日常の生活を希望されています。現在、力を入れて取り組んでいることは、11 月に開設予定の移植後の長期フォローアップ外来（以下 LTUF 外来）のことで、造血幹細胞移植は、支持療法の進歩によって、移植関連死亡症例が減少し、また、造血幹細胞ソースの入手ルートの整備などで移植の機会が拡大してきました。そのため、当院でも多くの移植症例があります。移植後の患者様は、晩期障害や慢性 GVHD などに困っていることが多く、その困りごとは日常生活にも支障をきたします。そのため、LTUF 外来の役割は、直接、移植看護の経験ある看護師が、その困りごとの相談を受け、ケアにつなげることです。私は、ある患者様との出会いで、LTUF 外来の開設の必要性をさらに強く感じました。それは、ある夏の日、A 氏が仕事に尿漏れがあり皮膚トラブルを抱え、困っていると病棟に相談にいられました。A 氏には、適切な皮膚ケアをアドバイスしました。その後、皮膚は改善し、「あの時は助かったよ。恥ずかしいし、痛痒くて切ないし。これでまた仕事が続けられるよ。」という A 氏の言葉を聞き、こういうことが『暮らす』を支えることではないかと思いました。この支援を行うにあたり、看護師の教育体制の構築を行っていくことも大切な事と考えています。

また、その他の活動としては、教育的な関わりが多く、院内や地域の看護系専門学校・大学でのがん看護基礎教育や患者会での日常生活などの教育を行っています。まだまだ勉強不足で、何もできない私ですが、自己研鑽を積みながら、病棟のスタッフや他職種と協働し、今、自分にできることを少しずつ発信していこうと思います。

ボランティアコンサート

平成 26 年 10 月 5 日（日）、がんセンター正面玄関待合ホールにおいてボランティアコンサートが開催され、入院患者さんを含む 55 名が参加されました。オカリナサークル「風」の皆さんとゲストの榎本正一さんによる唱歌メドレーやめぐり逢い、ふるさとなど、オカリナとフルートの美しい調べがホールに響き渡り、感動的な時間を過ごすことができました。



新潟県立がんセンター新潟病院 2014年(平成26年)11月外来診療予定表

11月1日現在

		月	火	水	木	金	
内 科	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	B 小山 建一 D 今井 洋介		
	402診	C 高山 亜美	D 今井 洋介	C 大倉 裕二			
	501診	C 大倉 裕二	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行		
	502診	A 青柳(午前) A 加藤(午後)	E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸	E 大山 泰郎	B 阿部 徹哉	
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 阿部 徹哉	A 栗田 聡	B 田中 洋史	
	602診	A 塩路 和彦	A 船越 和博	A 佐々木 俊哉	A 船越 和博	C 高山 亜美	
	201診	B 田中 洋史	B 樋浦 徹		D 移植外来(2,4週)	B 才田 優	
	新患 (2診体制)	A 成澤 林太郎 A 佐々木 俊哉 B 阿部 徹哉 F 谷 長行			A 青柳 智也 B 小山 建一 C 大倉 裕二 D 石黒 卓朗	A 船越 和博 B 田中 洋史 D 今井 洋介 E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸 B 才田 優 C 高山 亜美 D 廣瀬 貴之
*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医についてはお問い合わせください。							
A:消化器 B:呼吸器 C:循環器 D:血液 E:内分泌 F:糖尿病							
小児 科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	細貝 亮介	小川 淳	渡辺 輝浩	
	2 診	専門外来(11:00~ 2週は移植外来)			細貝 亮介		
外 科	1 診				佐藤 信昭(乳腺)	梨本 篤(胃)	土屋 嘉昭(肝胆臓)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆臓)	藪崎 裕(胃)	丸山 聡(大腸)	
	3 診	辰田 久美子(乳腺)	右田/高橋 [交替]	神林 智寿子(乳腺)	市川/會澤 [交替]	野上 仁	
	予防センター-乳腺	金子/辰田		佐藤 信昭	神林 智寿子	神林/金子 [交替]	
*乳腺外科については原則予約制となりますので、あらかじめご了承ください。							
呼吸器外科	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英	青木 正	岡田(1,3,5週) 吉谷(2,4週)		
整形 外科	新患	畠野/村井/有泉 [交替]	畠野 宏史	小林 宏人	有泉 高志	村井 丈寛	
	再来	小林 宏人	有泉 高志	村井 丈寛	畠野 宏史	小林 宏人	
*整形外科は完全紹介制となりますので、あらかじめご了承ください。							
神経内 科	原山 尋実	二宮 格	原山 尋実	原山 尋実			
脳神経 外科	1 診	宇塚 岳夫 (2,4週の午後)					
	2 診				高橋 英明	高橋 英明	高橋 英明
婦人 科	1 診	笹川 基	本間 滋	笹川 基	柳瀬 徹	本間 滋	
	2 診	柳瀬 徹	菊池 朗	菊池 朗	菊池 朗	笹川 基	
	3 診	*婦人科3診については再診予約のみの対応となりますので、ご了承ください。		本間 滋	本間 滋		
皮膚 科	1 診			高塚 純子	結城 明彦	竹之内 辰也	結城 明彦
	2 診	結城 明彦	竹之内 辰也	結城(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也	
泌尿 器科	1 診	北村 康男	小林(1週) 斎藤(2週) 鳥羽(3,4,5週)	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	北村 康男	
	2 診	小林 和博	ピリーム	小林 和博	鳥羽 智貴	ピリーム	
*新患については紹介状が必要となりますので、あらかじめご了承ください。							
眼 科	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭		
頭頸部 外科	1 診	佐藤 雄一郎	植木 雄志	植木 雄志		佐藤 雄一郎	
	2 診	森 香織	森 香織			森(1,3週) 植木(2,4週)	
放射線 治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	松本 康男	松本 康男	
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	杉田 公	杉田 公	
	3 診	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	
*木曜日の新患依頼は対応できない場合がございます。ご了承ください。							
麻酔科	丸山 洋一、富田 美佐緒(月~金 予約可能)、高田 俊和(火~金 予約可能)						
形成外科	齋藤 義之			坂村 律生	坂村 律生	齋藤 義之	
緩和ケア科				*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。			
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)	午前のみ		午前/午後		午前/午後		
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話:025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~17:00

地域連携・相談支援センターを通して予約した場合、原則として予約日当日に行える検査

CT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます